

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号																
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目																
					1. 知識・理解					2. 技能・表現				3. 思考判断/観察/感性							
					1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3					
24UPHM3305	薬事関連法規	3	患者の権利を考慮し、責任をもって医療に参画できる薬剤師になるため、医薬品医療機器等法、薬剤師法などの薬事関連法の精神とその施行に関する基本的知識を修得する。	1) 医薬品等の供給制度や副作用の救済制度等の基本となる法的根拠に関する知識を身につける。 2) 麻薬、向精神薬等の管理薬の取り扱い等の基本となる法的根拠に関する知識を身につける。	◎	○						○									
24UPHM4306	薬局管理学	4	公平で質の高い医療を受ける患者の権利を保障する仕組みを理解するために、社会保障制度と薬剤経済の基本的知識と技能を修得する。	1) 日本における社会保障制度の仕組みを説明する。 2) 医療保険の成り立ちと現状を説明する。 3) 国民医療費の動向、調剤報酬について概説する。 4) 医薬分業の仕組みと意義を説明する。 5) かかりつけ薬局の意義を説明する。	◎							○		○	○						
24UPHM5307	地域社会と薬剤師	5	薬剤師に求められている社会的使命と法的責任を自覚し、責務を果たすための判断力と行動力をもって、調剤、医薬品の供給、その他薬事衛生をつかさどる専門職として質の高い医療、保健、介護、福祉に貢献する能力を身につける。また、学修を通して地域医療における人・社会と薬剤師との関わりについて認識を深め、変化・多様化する社会に対応した役割を実践できる知識・技能を修得する。	学修した知識〈薬剤師としての業務および活動範囲〉・技能〈医薬品の取り扱い等〉・態度〈薬剤師としての倫理観および社会的使命〉等を総合的に活用して、薬学臨床実習において医療現場で得られた実務経験を活かし、高度な薬剤師としての資質を体得する能力を身につける。		○							◎	○			○	○			
24UPHM5203	生涯キャリアデザイン	5	薬剤師の使命や責務などの理解を深め、キャリア（生き方）を個人が主体的に考えて設計し、社会に積極的に参画する能力を身につける。	キャリアデザインが求められる社会的背景およびキャリアデザインに関する基本的な知識、教養、アプローチの方法について幅広く修得する。	◎	◎						◎								◎	
24UPHM1401	物理化学Ⅰ	1	医薬品の体内動態や安定性を理解する際に必要な物理化学的視点を養うため、物質の基本的な性質を修得するとともに、物質の変化における速度論に関する基本的な知識を修得する。	1) 物質間の相互作用や物質と電磁波の相互作用に関する知識を身につける。 2) 物質の変化を速度論的に取り扱うために必要な知識を身につけるとともに、その検証に必要な数学的スキルを身につける。									◎		○						○
24UPHM2402	物理化学Ⅱ	2	物質の状態を記述する関数から、その物質に生じる変化を予測するために、化学熱力学に関する基礎的な知識および技能を修得する。	1) 化学熱力学、物質の変化や溶液の性質などに関する基礎的な事柄の理論的背景を説明する。 2) 化学熱力学、物質の変化や溶液の性質などに関する基礎的な具体例について、数値の計算を行う。										◎		○					○
24UPHM2403	物理化学Ⅲ	2	体内で起こる生理的あるいは病的現象を理解する際に必要な物理化学的視点を養うため、物質の状態や溶液および電気化学に関する基本的知識を修得する。	1) 物質の相平衡に関する知識および状態図を読み取るスキルを身につける。 2) 生体の恒常性に寄与する束一的性質等の溶液の性質に関する知識を身につけるとともに、その検証に必要な数学的スキルを身につける。 3) 電気化学に関する知識を身につける。										◎		○					○
24UPHM1404	分析化学Ⅰ	1	化学物質を理解できるようになるために、代表的な無機化合物・錯体（医薬品を含む）の構造、性質に関する基本的事項を修得することを目的とする。また、化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、化学物質の定性分析および溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得する。	1) 代表的な無機化合物、錯体について説明する。 2) 代表的な無機イオンおよび医薬品の定性反応を説明する。 3) 溶液中の酸・塩基平衡の概念について説明する。 4) pHおよび解離定数について説明する。 5) 溶液中の化学平衡（錯体・キレート生成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡、分配平衡）について説明する。										◎		○					○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解					2. 技能・表現				3. 思考判断/観察/感性			
					1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	
24UPHM4709	臨床薬学基本実習Ⅰ	4	薬学臨床実習に先立ち、処方箋に基づいた調剤、薬物治療の実践、多職種連携における薬剤師の貢献など、薬剤師として臨床で求められる基本的な能力を修得する。(本科目は、臨床薬学基本実習Ⅱ・Ⅲを補完するものである。)	1) 処方監査、薬剤の調製、患者対応、服薬指導、疑義照会など薬学的管理を実践する上での基本的業務について理解し、シミュレーションする。 2) 薬物療法、チーム医療、地域医療へ貢献について根拠に基づいて討論する。	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	
24UPHM4710	臨床薬学基本実習Ⅱ	4	薬学臨床実習に先立ち、処方箋に基づいた調剤、薬物治療の実践、多職種連携における薬剤師の貢献など、薬剤師として臨床で求められる基本的な能力を修得する。(本科目は、臨床薬学基本実習Ⅰ・Ⅲを補完するものである。)	1) 処方監査、薬剤の調製、患者対応、服薬指導、疑義照会など薬学的管理を実践する上での基本的業務について理解し、シミュレーションする。 2) 薬物療法、チーム医療、地域医療へ貢献について根拠に基づいて討論する。	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
24UPHM4711	臨床薬学基本実習Ⅲ	4	長期実務実習に先立ち、コミュニケーション(初回面談および服薬指導)、バイタルサイン・フィジカルアセスメントの基礎、治療上患者に必要な手技の説明、症例検討による薬物治療の理解などについて基本的な知識・技能・態度を修得する。(本科目は、臨床薬学基本実習Ⅰ・Ⅱを補完するものである。)	1) 患者情報を適切に収集、評価し、状態を把握したうえで患者教育や服薬指導を実践する。 2) 薬学的管理に必要なフィジカルアセスメントを実践する。 3) 患者の治療に必要な様々な機器の使用法について説明する。 4) 症例を通じて患者の状態を把握し、薬物治療の有効性や安全性を評価し、最適化するための計画立案を行う。	○	○	○	○	○	○	◎	◎	○	◎	○	○	
24UPHM4712	臨床実習入門講義	4	薬学臨床実習の直前学習として、チーム医療を含めた薬物療法全般における病院薬剤師業務を理解するとともに、薬局や地域における薬局薬剤師の使命や業務を理解する。	病院や薬局、地域における実践的な薬剤師業務を説明するとともに、業務を行う上で必要な医療倫理について説明する。	◎	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	
24UPHM5713	薬学臨床実習	5	実務実習を通じて、薬学臨床の基礎を十分に学習し、処方箋に基づく調剤、代表的疾患の薬物療法の実践、チーム医療への参画、地域の保健・医療・福祉へ参画など、幅広い薬剤業務を実践するために必要な知識・技能・態度を修得する。	1) 実務実習にふさわしい心構えを持ち、処方箋に基づく調剤・疑義照会、服薬指導、患者対応・教育、医薬品(麻薬・向精神、特性生物由来製品)の管理、抗悪性腫瘍薬や各種注射剤の調製を行う。 2) 患者状況にあわせた処方提案やチーム医療・地域(在宅)医療へ積極的に貢献する。	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
24UPHM5714	臨床実習後演習	5	臨床実習で学んだことを振り返り総括するとともに、自身の経験を大学において他者と互いに共有する。これにより、臨床実習での個別事象の学びを一般的に理解し、個別最適化した薬物療法を実践するために必要な課題を発見し、解決策を導く力を身につける。	1) 臨床実習での学びを基に、与えられた模擬症例などに対して、個別最適化した薬物療法を実践する。 2) 患者のニーズを把握し、患者にとって効果的な情報提供を行う。 3) 自らが臨床実習で経験した内容で、効果的であったこと、改善が必要であったことなどを大学内で互いに共有し、個別最適化した薬物療法の実践について討論する。	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	
24UPHM2801	薬学基礎実習A	2	医薬品を含む目的化合物への化学変換を自分自身の手で実施するために、これまでに習った有機化学の理論・法則・反応などを理解し、有機合成反応の基本的知識、技能、態度を修得する。化学実験の基本操作を修得する。すなわち、実験器具の名称、使用法について学び、実験器具を正しく選択して装置を組み立てる。併せて、実験を通して実際に化学物質に触れ、化学的あるいは物理的性質を知り化学物質の正しい取り扱い方法を学ぶ。	有機化合物の代表的な反応、分離法、構造決定法などについての基本的知識を整理し、それらを実施するための基本的技能を修得する。課題となる有機反応に関して、有機化学の講義による知識と実験操作に関する知識を活用して実験計画を立て、自ら実験装置を組み立てて反応を実施する。得られた結果をまとめ、化学的に考察する。										◎		○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解			2. 技能・表現				3. 思考判断/観察/感性					
					1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	3-1	3-2	3-3	
24UPHM2802	薬学基礎実習 B	2	実験を通して化学物質の物理化学的性質に関する理解を深め、物理化学的性質を解析するための技能を修得する。	1) 薬学および生命科学に関する化学物質の物理化学的性質を測定する。 2) 薬学および生命科学に関する化学物質の物理化学的性質の測定データを解析し、論理的に考察する。			◎				◎	○				◎	
24UPHM3803	薬学基礎実習 C	3	自然界に存在する物質を医薬品として利用できるようにするために、基になる薬用植物や生薬、それらの活性物質の取り扱いを修得する。また、生体の構造とその機能調節の仕組みを統合的に学修し、生命に対する倫理的な姿勢を養う。	1) 代表的な薬用植物の特徴を理解し、分類や利用法について説明する。 2) 代表的な生薬について、基原、特徴、成分、確認試験法等を用いた同定や品質評価を説明する。 3) 天然有機化合物の抽出および分離精製法を説明する。 4) 複数の機器分析法を組み合わせた天然物の構造解析例を説明する。 5) 生体を構成する器官の立体的位置関係を把握し、その構造と組織・細胞を関連づけて説明する。 6) 器官の生理的機能について、生体における役割と調節機構を体系的に説明する。			◎				◎	○			◎	○	
24UPHM3804	薬学基礎実習 D	3	化学物質（医薬品を含む）を適切に分析できるようになるために、分析器具の取り扱い方法、化学物質の定性分析法、定量分析法および分離分析法の技能を修得するとともに、臨床現場で用いる分析技術を応用するための技能を修得する。また、生命現象を細胞や分子レベルで理解するために、実験を通して生体構成分子や免疫反応の基本事項を修得する。	1) 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施する。 2) 溶液のpHを測定するとともに、緩衝液を調製する。 3) 日本薬局方収載の代表的な医薬品のクロマトグラフィーによる定性・定量を行う。 4) 生体構成分子の定性または定量試験を実施する。 5) 酵素反応速度を測定し、解析する。 6) 抗原抗体反応を利用した検査方法を実施する。			◎				◎	○			◎		
24UPHM3805	薬学基礎実習 E	3	薬剤師および薬学系業務等を行う上で必要な、基本的な微生物の取り扱い方法を身につける。また、製剤化の方法と意義、薬物動態の理論的解析と投与設計に関する基礎的スキルを修得する。	基本的な微生物の取り扱い方法として、無菌操作、微生物の培養およびグラム染色等の技能を身につける。また、製剤化の意義と製剤の性質を理解するために、薬物と製剤材料の物性、製剤設計、薬物の体内動態およびその解析に関する基本的知識を応用する技能を身につける。			◎	○	○	◎	○					◎	○
24UPHM3806	薬学基礎実習 F	3	薬理学の講義で学修した薬物の作用に関する知識を動物実験を通して実際に確かめる。また、食品、水、空気などに含まれる有害因子を実際に測定する基本的な実験方法を修得する。	代表的な実験動物の倫理的に配慮した適切な取り扱い方、薬物投与方法を身につけるとともに、末梢神経系および中枢神経系に作用する薬物の薬効薬理試験を実施し、薬理作用（主・副作用）に関する知識を総合的に修得する。また、中毒原因物質の分析法、水の分析法、室内環境の分析法、食品の変質試験法などの基本的スキルを身につける。			◎	○	○	◎	○		○			○	○
24UPHM5108	発展英語 II	5	薬学分野では、研究や臨床において英語の文書を理解し、英語で文書を作成する必要がある。本科目は、英語を研究ツールとして使用するための技能を修得する。	各自の研究分野に関連する最新の英語論文を選別し、内容を把握するとともに、それをわかりやすく説明する。			○	○	○		○	◎				◎	
24UPHM5109	薬学英語演習	5	本科目は、グローバルな薬剤師として活躍するための国際感覚を養成し、英語力のレベルアップとともにアメリカにおける薬剤師の役割および活躍分野を学ぶ。	1) 聞く、話す、読む、書くのスキルを磨き、英語で自らの考えや感じたことを発信できるようになる。 2) アメリカの薬剤師・研究者の活躍分野を見聞し、グローバルに活躍できる薬剤師を目指す。			○	○			○	○			○	○	○
24UPHM4807	卒業研究 I A	4	将来、薬剤師として薬学・医療の進歩と改善に資するため、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。	研究室に所属して、研究課題の見つけ方、情報収集や研究方法、研究結果のプレゼンテーション法などを修得する。	○	○	○	○	○		◎	◎		○	◎	◎	
24UPHM4808	卒業研究 I B	4	将来、薬剤師として薬学・医療の進歩と改善に資するため、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を身につける。	研究室に所属して、研究課題の見つけ方、情報収集や研究方法、研究結果のプレゼンテーション法などを修得する。	○	○	○	○	○		◎	◎		○	◎	◎	

